



同クラスのハンドガイドローラと比べ約5倍の起振力！ 前後進プレート550kg MVH502DSB

前後進プレートの特徴

- ・前後進プレートは二個のアンバランスウェイトから発生する遠心力により、強力な締め固め力を発生させます。
- ・アンバランスウェイトの回転方向により、前進、後進、停止と走行方向と速度、締め固め力を任意に選ぶことができ、機体の重心が低く、極めて安定した操作が出来る安全な機械です。
- ・前後進プレートは主に路床の砂、砂利の転圧に使用され、ハンドガイドローラは主にアスファルト舗装の転圧に使用され、低騒音機械としての指定番号を有し、都市部での工事で効果があります。




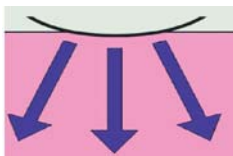


前後進プレートの使用例

ハンドガイドローラでは取り回しの困難な現場で、効果を発揮します。

参考: 写真の機種は(BOMAG製381kg)

ハンドガイドローラと前後進プレートとの比較

仕様		
機種	前後進プレート550kg MVH502DSB	ハンドガイドローラ 600kg MRH-600DSA
運転質量(kg)	550	646
全長×全幅×全高(mm)	1,680×550×950	2,620×1,130×692
操作性	前後進コンパクタは転圧板が最も幅広いため、最大幅＝転圧幅となります。そのため、狭い作業現場や、壁際等の転圧に有効。 前後進コンパクタは小さくジャンプしながら走行するため、ハンドガイドローラと比べ、ハンドリングが容易。	ハンドガイドローラは構造上機械本体幅が転圧幅(ローラ幅)より広がるため、壁際等の転圧が困難。
エンジン(馬力)	ハツツ 1D81S(13.2ps)	クボタ E75-E3-NBS(6.3ps)
構造上の利点	ローラと異なり、駆動機構がないため、同重量クラスの機械でも、強力な振動機構および、大出力のエンジンを搭載することができ、その出力を転圧力に使用することができる。	
振動数(V.P.M)	4,000	3,300
起振力(kN)	61.7	10.8
転圧方法の利点	 転圧板(面)で接する。 ※転圧エネルギーが効率よく伝わる ・強力な転圧力により施工厚さを厚くすることが可能。	 鉄輪の一部(線)で接する。 ※転圧エネルギーが分散